帝塚山大学現代生活学部紀要　第 20 号　68 ～ 75（2024）　研究報告

小規模保育施設における周辺の都市環境と園外活動ルートの選択状況について

Route selection to the surrounding urban environment for outside activities of small-scale childcare facilities

吉住　優子*、辻川　ひとみ**
YOSHIZUMI Yuko　TSUJIKAWA Hitomi

This study examines the nature of the urban environment and its relationship with the location of small-scale childcare facilities, focused on the content of regional resources utilized during outside activities and the situation of setting and selecting activity routes. We clarified the following; 1) The most commonly used regional resources in outside activities were parks and other facilities, depending on the characteristics of the facility's location. 2) The range of routes for outside activities to expand with increase in children's age. 3) The route for outside activities was determined by factors like presence or absence of regional resources and the degree of development of urban environment, rather than the distance between the facility and destination.

1. はじめに

小規模保育施設は、女性の社会進出や共働き家庭及び核家族の増加により待機児童の受け皿として増設され、現在、全国の保育所等数の約 15%を占めている [1)]。小規模保育施設の受託児童定員数は 6～19 人で 0～2 歳児を対象とし、保育所に比べて規模が小さいことから、空き家や集合住宅の改修等の地域における多様性に対し柔軟に対応することが可能で、施設の用地確保が課題となる都市部でも多く開設されてきた。しかしながら集合住宅やテナント等を利用し駅近に開設するなど、施設に園庭の設置が困難な場合は、施設の設置基準において付近にある公園等を園庭の代替地とすることが認められている。このような園庭を持たない施設等では園外活動が必要となるため、児童が日常的に利用する代替地の環境をはじめ、経路の安全対策など、安心して保育が行われる環境整備について考察を重ねるべきと考える。既報 [2)]では、小規模保育施設の立地に関わる都市環境のあり方を示すことを目的とした研究として、施設が実施する園外活動に着目し、その活動状況と施設周辺における地域資源利用の概況を、全国の小規模保育施設 637 件に対するアンケート調査の結果により示した。結果、分析対象施設が立地している周辺環境の地域を、「新興住宅地（68 件）」、「密集住宅地（172 件）」、「開発完了住宅地（164 件）」、「開発新興住宅地（94 件）」、「市街地（106 件）」、「工業地（33 件）」の 6 つの地域特性タイプに分類し、87.8%の施設において施設の立地場所から 1200 m 圏内での園外活動が行なわれていることが確認できた。さらに、施設立地の 1200 m 圏域に保有している地域資源については、「体力作りや自然に触れる」事のできる（以下「体」と示す）資源、「人と触れあう、または集団体験ができる」（以下「人」と示す）資源、「教養・文化・社会の事象を学ぶ」事のできる（以下「教」と示す）資源の 3 種類の資源タイプに分類し、園外活動時に利用される資源は「体」資源が大半を占めることを把握した。本報では、これらの結果を踏まえて園外活動の実態調査を行うことで、園外活動時に利用する地域資源と活動ルートの設定及び選択状況を確認し、小規模保育施設が立地する都市環境とともに分析を行う。

* 居住空間デザイン学科 准教授、** 居住空間デザイン学科 教授

2. 先行研究

都市部における園外活動に関する研究としては、都市計画ならびに保育の分野において先行研究の蓄積がある。小池・定行は、施設周辺の都市空間を屋外保育施設として捉え、園庭での保育活動と公園等園庭代替施設での活動による遊びの違いを分析し、地域を保育施設の延長空間として総合的に計画することの重要性を示している[3)]。田中・三輪・松橋・谷口は、駅前で開設された保育施設の敷地内空地面積の少なさと園外活動との相関を指摘し、園外活動時の利用公園に対する評価内容について述べている[4)]。また、保育の質を高める観点からの研究として、森・横松は、保育所保育指針解説書における記述内容を分析し、園外活動の保育的意義を「健康」、「人間関係」、「環境」領域別に整理し、保育課程編成時の配慮事項を抽出している[5)]。本研究は、施設の周辺環境の地域特性に着目し、特性が異なる環境において整備計画に求められる内容や、具体的な課題についての知見を得ることを目的とした研究として位置づけられる。

3. 調査概要

表 1 に調査概要を示し、表 2 に調査対象施設と調査日の概要を示す。既報[2)]で分析対象とした小規模保育施設 637 件の 6 つの地域タイプのうち、「体」資源、「人」資源、「教」資源の 3 種類全てを保有し、かつ利用地域資源が 5 件以上もしくは利用地資源割合が 20%以上の施設を「新興住宅地」、「密集住宅地」、「開発完了住宅地」、「開発新興住宅地」、「市街地」、「工業地」の 6 つの地域タイプから各 1 施設選出し、調査対象施設とした。そのうち本報では「新興住宅地」に所在する施設〈OS〉、「市街地」に所在する施設〈KK〉、「工業地」に所在する施設〈OO〉の 3 施設について報告を行う。なお、これら 3 施設の都市規模は全て大都市であり、施設〈OS〉は約 20 m² の園内菜園のための小さな園庭を

表 1　調査概要

調査対象施設	(1)「新興住宅地」施設〈OS〉 (2)「市街地」施設〈KK〉 (3)「工業地」施設〈OO〉
調査方法	対面式ヒアリング調査、追跡観察調査
調査日程	(1)　2022 年 10 月 24 日 (2)　2022 年 11 月 14 日 (3)　2022 年 11 月 28 日
調査項目	・園外活動の種類と実施条件 ・園外活動ルート数と活動内容 ・園外活動ルートの目的 ・ルートの選択基準 （天候・気候・児童の発育と体調等） ・園外マップの有無 ・連携施設の役割とその関係 ・周辺地域における危険個所とその理由 ・周辺にある地域資源の利用されない理由

表 2　調査対象施設と調査日の概要

地域タイプ	新興住宅地	市街地	工業地
施設名	〈OS〉	〈KK〉	〈OO〉
都市規模*1	大都市	大都市	大都市
施設建物	専用建物	集合住宅 1 階	集合住宅 3 階
園庭／施設面積	19.68 ㎡	0 ㎡（園庭なし）	0 ㎡（園庭なし）
園外活動ルート数	5 ルート	8 ルート	11 ルート
園外活動圏域	400 m	1200 m	800 m
調査実施日	2022/10/24	2022/11/14	2022/11/28
調査日児童数／定員数	22 人／22 人 （0 y-4 人、1 y-11 人、2 y-7 人）	12 人／16 人 （0 y-2 人、1 y-7 人、2 y-3 人）	8 人／9 人 （0 y-なし、1 y-4 人、2 y-4 人）
引率者数	9 人	7 人	5 人
天気	晴	曇	晴
温度／湿度	21.6℃／49%	16.9℃／56%	18.0℃／42%
活動時間	53 分	14 分	58 分
移動距離*2	約 1 km	約 550 m	約 900 m
移動方法	徒歩・多人数用カート	徒歩・多人数用カート	徒歩・多人数用カート
出発-帰園時刻	10：29 - 11：22	10：05 - 10：19	9：49 - 10：47

*1 国土交通省が設定する都市規模の分類に従い、東京都区部又は政令指定都市を「大都市」とする。
*2 数値はグループとして移動した距離を示し、児童各人が個人的に移動した距離を除く。

持ち、施設〈KK〉と施設〈OO〉は園庭を持たない施設である。また、いずれの施設においても保育中に園外活動が行われており、複数の園外活動ルートが設定されている。

調査方法は、施設長へのヒアリング調査及び園外活動の追跡観察調査である。ヒアリング調査では、園外活動の種類と実施条件、利用ルート数と活動内容、ルートごとの目的、利用していないルートの理由等についての聞き取りを実施した。また、施設が中心となる地図調査シートを用いて、ヒアリング時に活動内容やコース経路を描き起こしながら、園外活動ルートの情報を収集した。追跡観察調査では園外活動に調査員が同行し、移動経路や児童の行為が発生した場所と時刻、その行為と活動内容等を記録するとともに、ビデオカメラ撮影を行った。なお、追跡観察調査は 10 月と 11 月の秋季の中で晴れ又は曇りの日程に実施した。

４. 1200 m 圏域の保有地域資源と園外活動時の利用内容

調査対象の 3 施設が、施設を中心とした 1200 m 圏域に保有する「体」資源、「人」資源、「教」資源について、園外活動圏域を 0～400 m、400 m～800 m、800 m～1200 m に分類し確認を行った。また、その中で利用している地域資源について施設の立地環境とともに分析を行った。

(1) 施設<OS>

図 1 に施設〈OS〉が 1200 m 圏域に保有している地域資源を示す。施設〈OS〉は新興住宅地に所在し戸建て住宅を主とした住宅街で、大半が第一種住居地域である。1200 m 圏域に保有している地域資源数は全 91 件で、内訳としては 0～400 m が 17 件(18.7%)、400 m～800 m が 26 件(28.6%)、800 m～1200 m が 48 件（52.8%）であり、施設周辺に地域資源がバランスよく点在している。また、保育資源タイプ別にみると「体」資源が 18.7%、「人」資源が 8.8%、「教」資源が 61.6%で「教」資源が最も多く、施設周辺に図書館、商業施設、店舗、駅が立地し、教養や社会の事象に触れる機会を持つエリアであると言える。

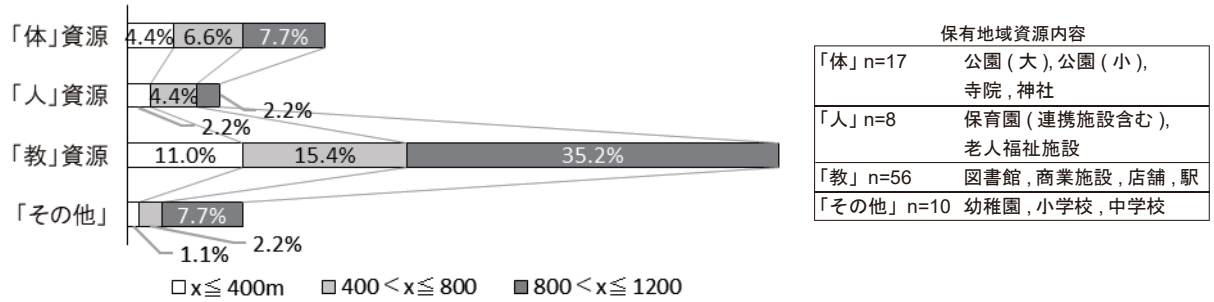


図 1　施設〈OS〉の 1200m 圏域に保有している地域資源（N=91）

続いて図 2 に施設〈OS〉が園外活動時に利用している地域資源を示す。施設から 0～400 m 圏域では、公園(小)4 件の利用があり、保有している「体」資源の全てを利用していた。一方で、「教」資源及び「人」資源は利用されていなかった。次に 400 m～800 m 圏域では、公園(大)1 件のみが年 3 回の遠足に利用されており、その他の「体」資源、「教」資源、「人」資源は利用されていなかった。また、800 m～1200 m 圏域では、いずれの地域資源も利用されていないことが確認できた。以上の結果より、施設〈OS〉では、園外活動時に施設から 400 m 圏域の近距離に立地する「体」資源を主として利用し、複数の公園を組み合わせた園外活動が行われていることが把握できた。

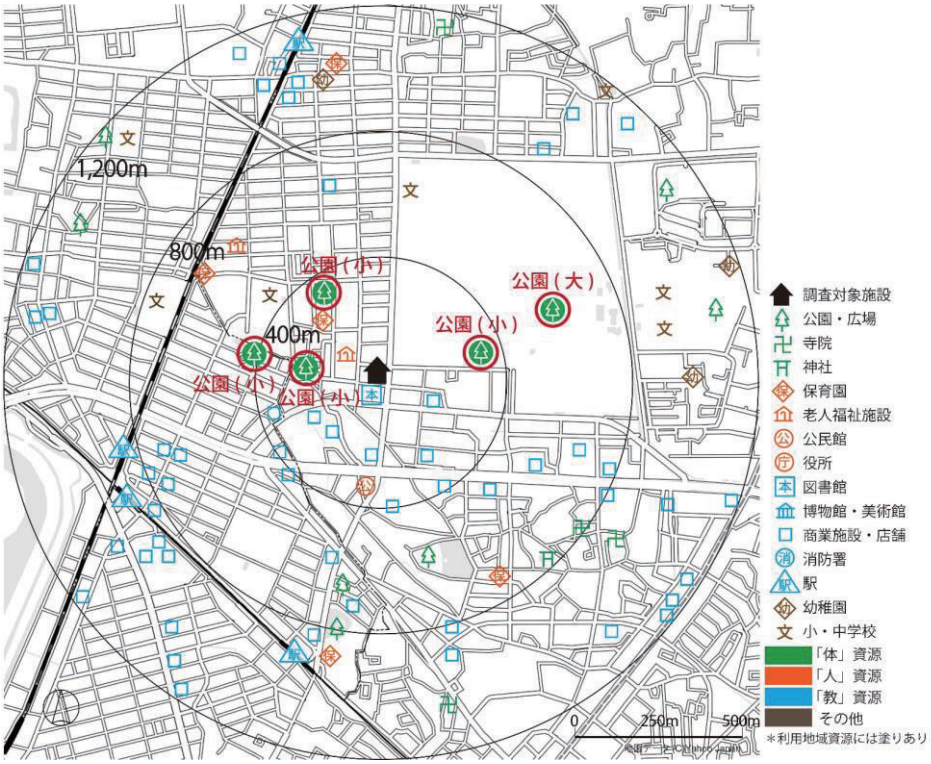
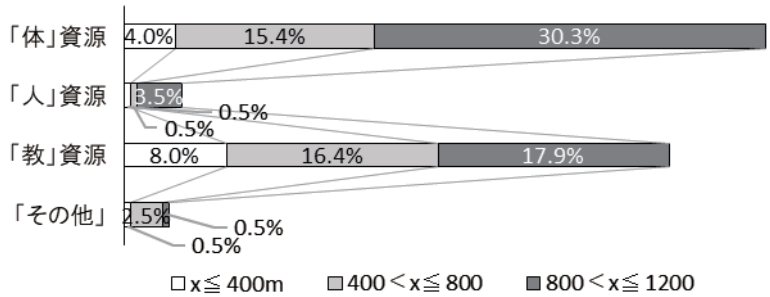


図 2　施設〈OS〉の園外活動時に利用している地域資源（N=91）

(2)　施設<KK>

図 3 に施設<KK>が 1200 m 圏域に保有している地域資源を示す。施設<KK>は市街地に所在し、住宅地と商業施設が混在する近隣商業地域に位置する。保有地域資源数は全 201 件で、内訳としては 0～400 m が 26 件（13.0%）、400 m～800 m が 70 件（34.8%）、800 m～1200 m が 105 件（52.2%）であり、施設周辺に多くの地域資源が点在する地域である。また、保育資源タイプ別にみると「体」資源が 49.7%、「人」資源が 4.5%、「教」資源が 42.3%で、「体」資源と「教」資源がほぼ同率で非常に多く、施設周辺には寺院、神社をはじめ、図書館、博物館・美術館、商業施設等の多数の資源が立地する賑やかなエリアであると言える。



保有地域資源内容

「体」n=100	公園（大），公園（小），河川敷 寺院，神社
「人」n=9	保育園（連携施設含む） 老人福祉施設，役所
「教」n=85	図書館，博物館，商業施設 店舗，商店街，消防署，駅
「その他」n=7	幼稚園，小学校，中学校

図 3　施設〈KK〉の 1200m 圏域に保有している地域資源（N=201）

続いて図 4 に施設<KK>が園外活動時に利用している地域資源を示す。施設から 0～400 m 圏域では、公園(小)2 件と商業施設 1 件の利用があり、保有している「体」資源の公園全てを利用し、地域特有の寺院、神社は多数存在しているものの利用していなかった。次に 400 m～800 m 圏域では、「体」資源である公園(小)1 件、公園(大)1 件が利用されており、「教」資源である商店街についても月 2 回の定期的な活動がみられた。以上の結果より、施設<KK>では商業施設や公共施設が多数存在する立地特性を活かして、多様な「教」資源を取り込んだ園外活動が展開されていた。

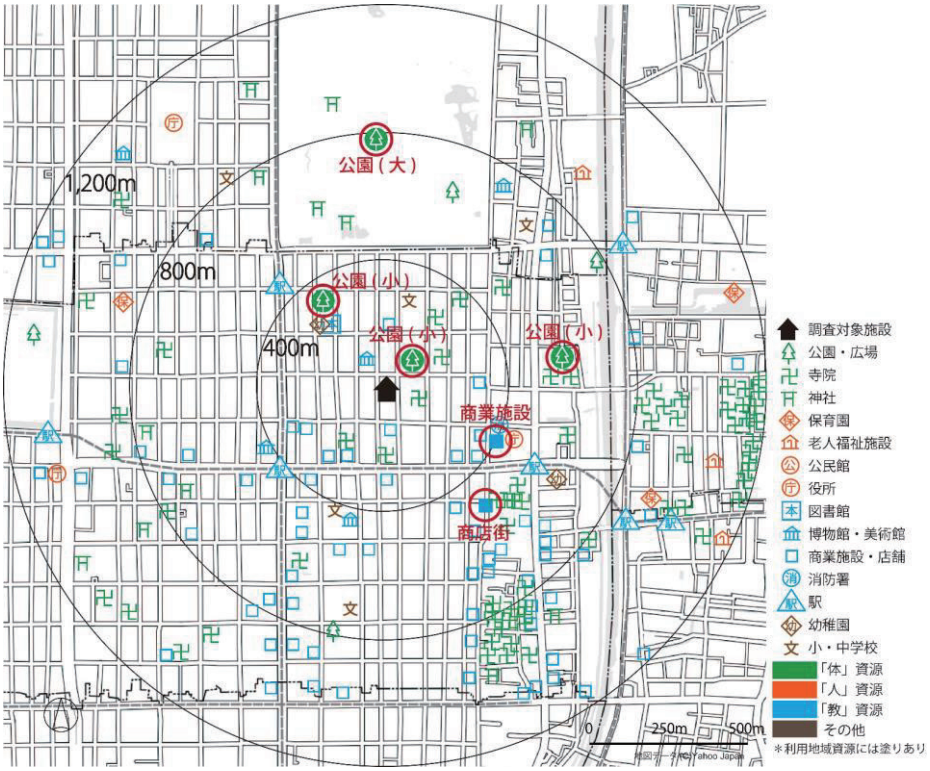
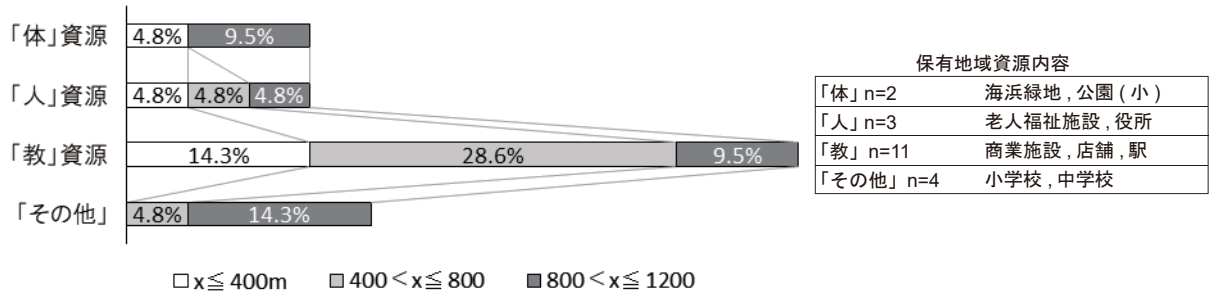


図 4　施設〈KK〉の園外活動時に利用している地域資源（N=201）

(3)　施設<OO>

図 5 に施設<OO>が 1200 m 圏域に保有している地域資源を示す。施設<OO>は工業地に所在し、周辺に大規模な工場、医療施設、大型商業施設が隣接している。保有地域資源数は全 20 件で、内訳としては 0～400 m が 5 件（23.9%）、400 m～800 m が 8 件（38.2%）、800 m～1200 m が 7 件（38.1%）であり、施設周辺の地域資源が非常に少ない地域である。また、保育資源タイプ別にみると「体」資源が 14.3%、「人」資源が 14.4%、「教」資源が 52.4%で、施設周辺に海浜緑地、駅が立地するが、利用できる地域資源が限られたエリアであると言える。



保有地域資源内容

「体」n=2	海浜緑地，公園（小）
「人」n=3	老人福祉施設，役所
「教」n=11	商業施設，店舗，駅
「その他」n=4	小学校，中学校

図 5　施設〈OO〉の 1200m 圏域に保有している地域資源（N=20）

続いて図 6 に施設<OO>が園外活動時に利用している地域資源を示す。施設から 0～400 m 圏域では、「体」資源である海浜緑地、「人」資源である役所、「教」資源である駅の合計 3 件の利用があり、施設から近距離のほぼ全ての保有地域資源を利用している。次に 400 m～800 m 圏域では、「教」資源である商業施設 1 件のみの利用であり、800 m～1200 m 圏域では、いずれの地域資源も利用されていなかった。以上の結果より、施設<OO>では地域資源の選択肢が少ない状況下にあるが、施設周辺の地域資源を狭域ながらもコンパクトに取り込み、園外活動が行われていることが確認できた。

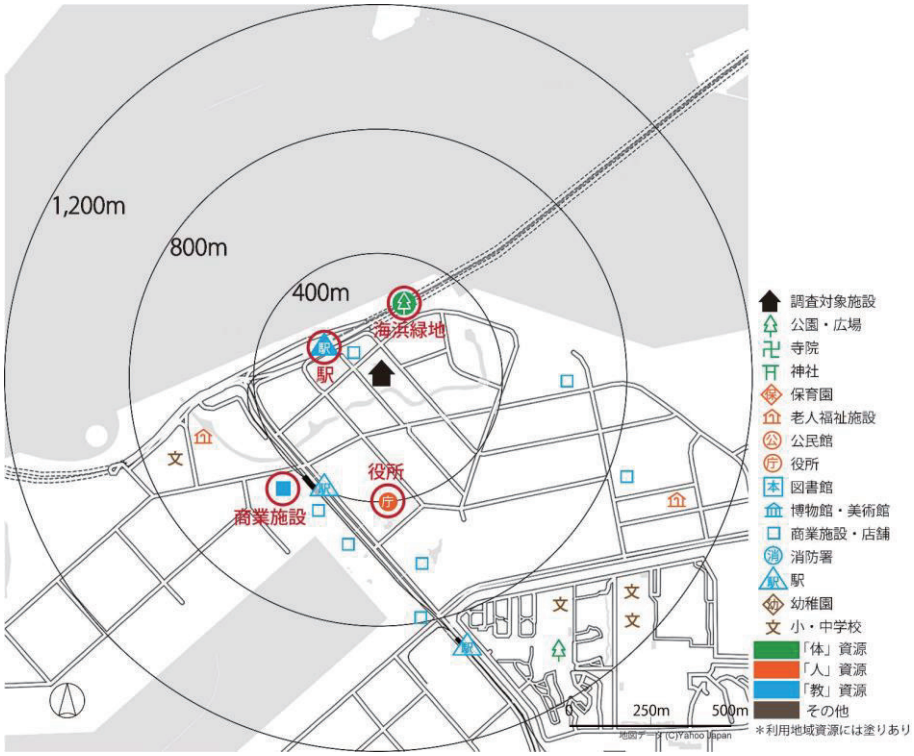


図 6　施設〈00〉の園外活動時に利用している地域資源（N=20）

5．地域特性と園外活動ルートの関係

各施設が園外活動のために設定しているルート数と利用頻度について整理し、ルートごとの活動内容、利用資源、ルート別の目的について分析を行った。

まず、図 7 に施設<OS>の園外活動ルートを示す。施設が園外活動のために設定しているルート数は、全 5 ルートである。利用頻度順にみると、②の公園（小）が週 4 回、⑤の公園（小）が週 4 回、④の公園（小）が週 3 回、③の公園（大）が年 3 回、①の周辺散歩が不定期利用、の順となった。前述のように施設周辺には「体」資源の公園 4 件を保有し、それら全てを園外活動に組み入れてルートを設定しており、頻度の高い②④⑤ルートは 400 m 圏域に集中していた。しかしながら 400 m 圏域であっても施設から南東側ではルートが設定されておらず、ヒアリングにより交通量の多い幹線道路を意識的に避けた経路での園外活動が行われていることが確認できた。

続いて図 8 に施設<KK>の園外活動ルートを示す。施設が園外活動のために設定しているルート数は、全 8 ルートである。利用頻度順にみると、②の公園（大）が週 2 回、⑥⑧の周辺散歩が週 2 回、①の公園（小）が週 1 回、⑤の商業施設が月 2 回、⑦の商店街が月 2 回、④の公園（小）が年 5 回、③の公園（小）が秋冬のみの利用、の順になった。この施設では 400 m 圏域における周辺散歩のための⑥⑧ルートの頻度が高い一方で、800 m～1200 m 圏域の公園（大）への②ルートも同様に頻度が高く、地域資源を使い分けながら、児童の体力作りを目的とした園外活動を重視していることがわかった。また、頻度は低いものの、商店街への⑦ルートでは、アーケードの店先に並んだ野菜や果物等で季節感に触れ、住民と交流する機会を設け、公園（小）への④ルートでは、2 歳児のみを対象とした遠方への園外活動が設定されるなど多様であり、市街地としての特性を活かした活動内容をはじめ、児童の年齢とともに活動圏域を拡大していることが確認できた。

続いて図 9 に施設<OO>の園外活動ルートを示す。施設が園外活動のために設定しているルート数は、全 11 ルートである。利用頻度順にみると、①②③⑩の海浜緑地広場が週 2 回、⑥の周辺散歩が週 1 回以下、⑨の遊歩道が月 1 回、⑤⑧の海浜緑地の海沿いが年 1 回、⑦の商業施設が遠

※ 図中の①～⑤は、ヒアリング調査時に聞き取った番号と一致させ割り振っている

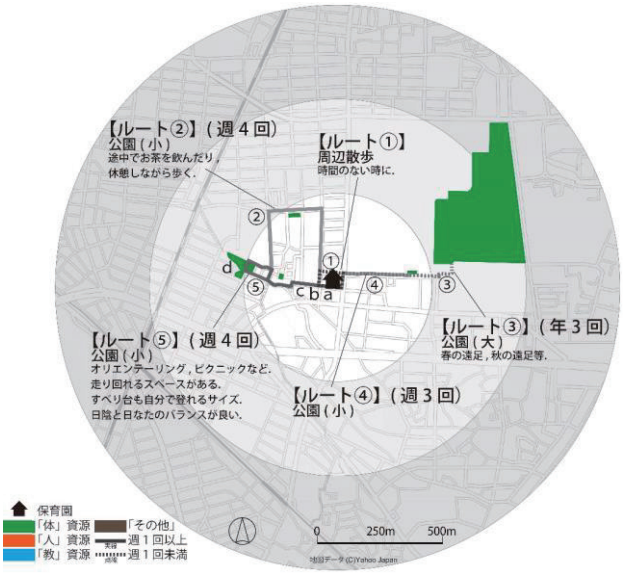


図 7　施設〈OS〉の園外活動ルート（N=5）

※ 図中の①～⑧は、ヒアリング調査時に聞き取った番号と一致させ割り振っている

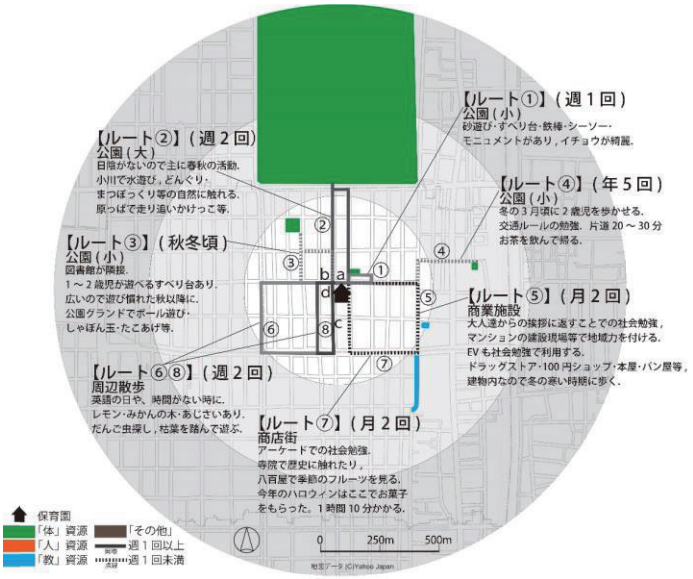


図 8　施設〈KK〉の園外活動ルート（N=8）

※ 図中の①～⑪は、ヒアリング調査時に聞き取った番号と一致させ割り振っている

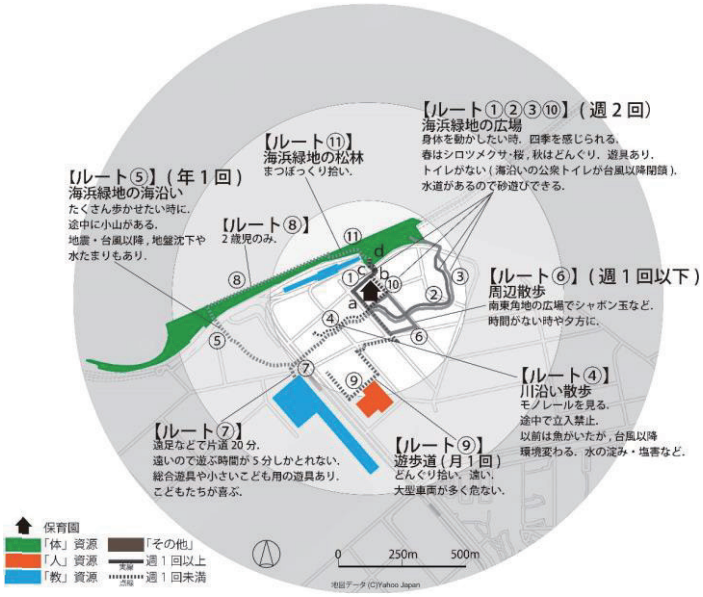


図 9　施設〈OO〉の園外活動ルート（N=11）

足時に利用、④の川沿いおよび⑪の海浜緑地松林は不定期利用、の順になった。前述のように、この施設は工業地に所在しており地域資源が少ないエリアである。頻度の高いルートは、いずれも「体」資源である海浜緑地を目的地とした①②③⑩ルートであり、全て 400 m 圏域であった。また、海浜緑地へのルートは合計 7 つで、全ルートの 6 割以上を占めるが、各ルートの経路上に存在する植物や樹木など、自然と触れあうことのできる場所を保育者の細やかな観察に基づき組み込み、多様なルート設定が行われていることがわかった。また、施設〈KK〉と同様に、海浜緑地の海沿いへの⑤⑧ルートでは、2 歳児のみを対象とした遠方への園外活動が設定されており、児童の年齢に伴った園外活動ルートが確認できた。

6. まとめ

本報では、施設が立地する地域特性の異なる小規模保育施設について、園外活動において利用する地域資源の内容と園外活動ルートについて、以下のような知見を得ることができた。

1) 園外活動において利用される地域資源は、「体力作りや自然に触れる」ことのできる資源である「公園」が最も多く選択されていたが、施設が立地する周辺の地域特性により、「教養・文化・社会の事象を学ぶ」資源である「商業施設」や「商店街」も選択されており、多様な資源の活用状況が確認できた。
2) 園外活動ルートでは、施設から近距離の 400 m 圏域で設定される頻度が高い傾向にあったが、一方で 2 歳児には園外活動圏域を 800 m から 1200 m に拡大したルートの設定も行われており、児童の年齢により活動空間の地域への広がりが確認できた。
3) 園外活動ルートの経路選択は、施設を始点とした目的地までの距離によるものだけでなく、ルート上の地域資源の有無や、交通量の多い幹線道路の配置、都市環境の整備状況等との関わりにより設定していることが把握できた。

次報以降では、引き続き異なる地域特性に立地する施設についての実態調査を進め、園外活動における施設周辺環境のあり方について、さらなる考察を行う予定である。

謝辞

本研究の一部は JSPS 科研費 22H00995 の助成を受けたものです。調査を行う上で貴重なご意見をいただいた、子どもの領域研究所 代表の尾木まり先生をはじめ、アンケート及び調査にご協力をいただいた全国の小規模保育施設の方々に厚く謝意を示します。

参考文献

1)こども家庭庁：令和 5 年 4 月待機児童数調査 概要資料、2023.4
2)辻川ひとみ・吉住優子：小規模保育施設における園外活動に関する基礎的研究、帝塚山大学現代生活学部紀要、第 18 号、pp.37-45、2022.3
3)小池孝子・定行まり子：都市部における保育施設の屋外保育環境について―東京都区部における複合型保育所の施設環境に関する研究 その 2―、日本建築学会計画系論文集、第 73 巻、pp.1197-1204、2008.6
4)田中稲子・三輪律江・松橋圭子・谷口新：横浜市における駅前保育施設の園外活動の場としての街区公園利用とその評価に関する研究、日本都市計画学会都市計画論文集、No.44-3、pp373-378、2009.10
5)森英子・横松友義：保育園の「園外へ歩いて出かける活動」に関する保育課程編成時の留意点、兵庫教育大学教育実践学論集、第 15 号、pp101-111、2014.3